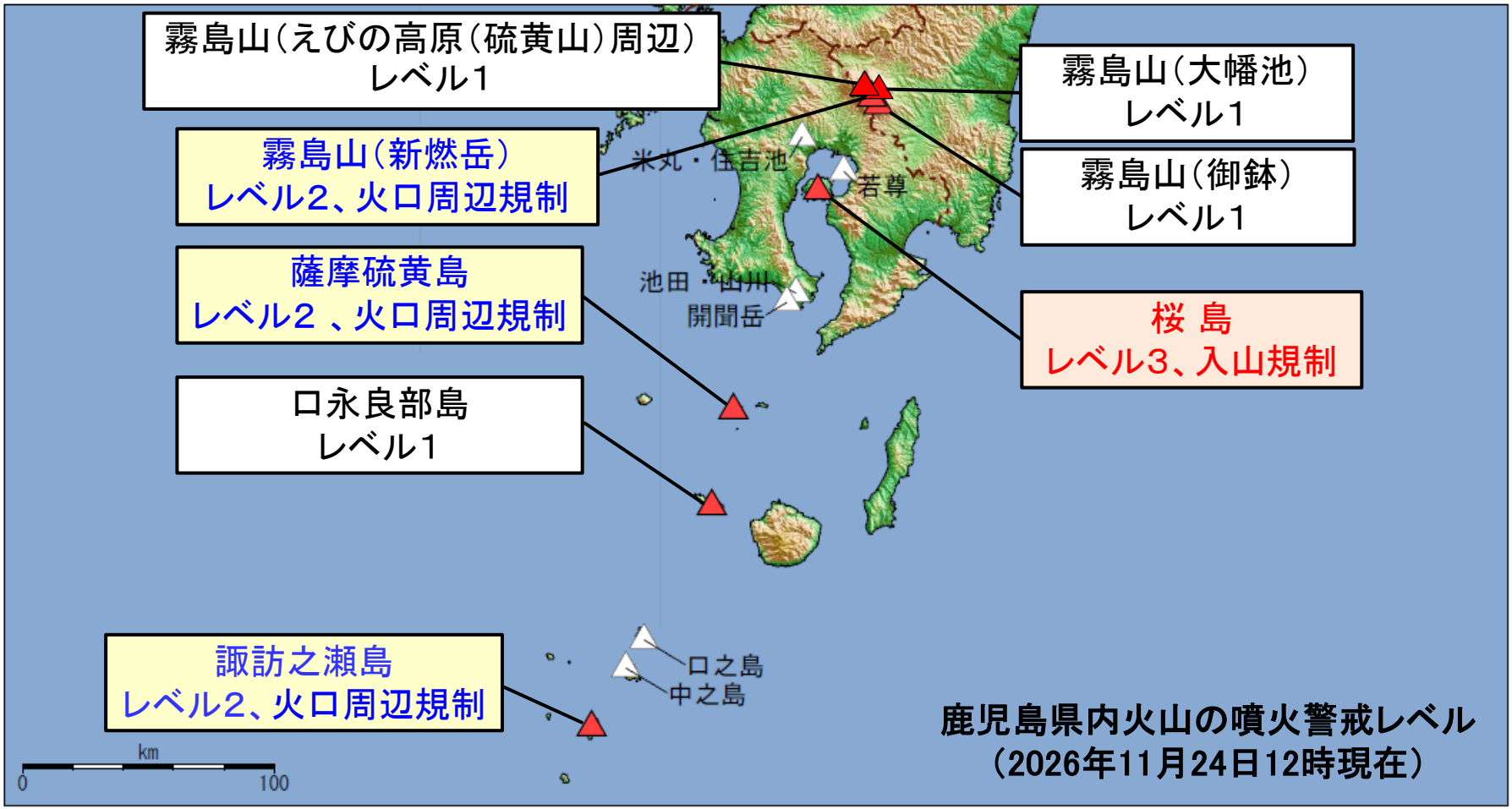
国土交通省
気象庁
Japan Meteorological Agency

2026年11月24日（火）
月例気象説明会

# 鹿児島県の火山活動概況

## 2026年10月～11月18日

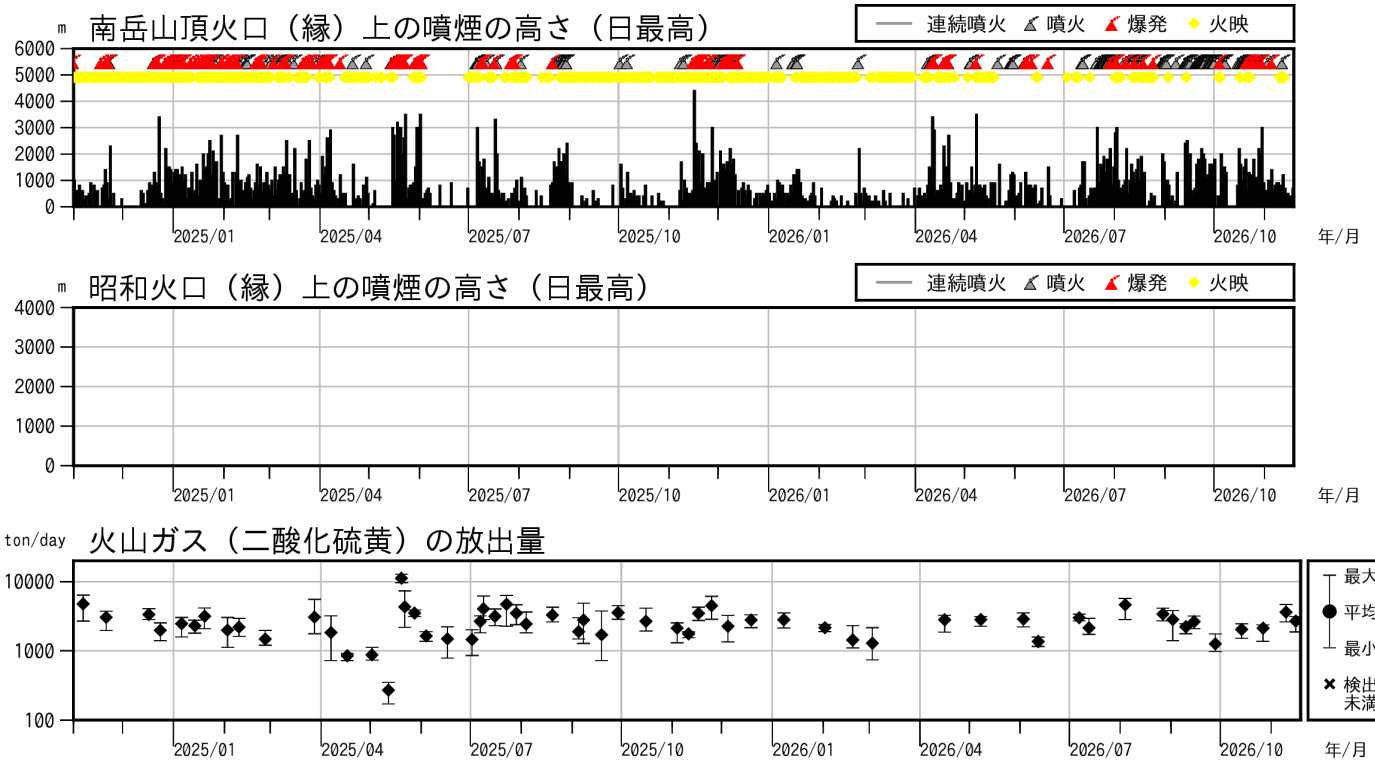



鹿児島地方気象台

# 桜島　噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
（2022年7月27日20時00分発表）

| | １０月以降の主な状況 |
|---|---|
| 活動評価 | **姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる** |
| 噴火活動 | ［南岳山頂火口］<br>噴火回数　11月（18日まで）：4回（うち爆発：1回）　10月：噴火94回（うち爆発：11回）<br>10月30日19時49分の爆発：噴煙は火口縁上3,000m、大きな噴石は約800m（８合目）まで飛散<br>［昭和火口］（ごく小規模含め）噴火は発生せず |
| 火山ガス | 二酸化硫黄の放出量は１日あたり平均2,000～3,600トンと多い状態 |

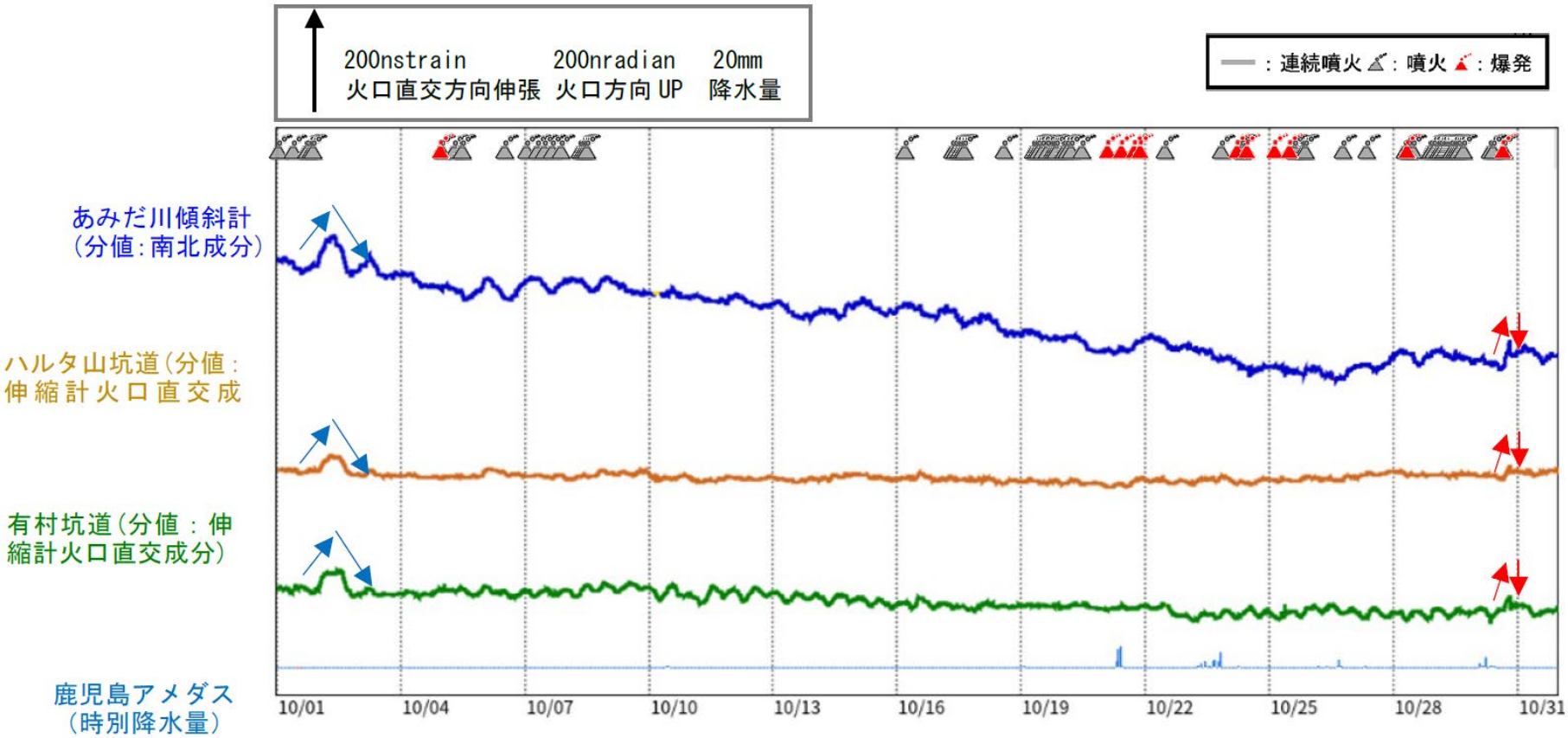



桜島　噴煙・火山ガス活動推移（2024年11月～2026年11月18日）

# 桜島　噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
（2022年7月27日20時00分発表）

| | １０月の主な状況 |
|---|---|
| 傾斜・伸縮 | 桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、一部の噴火に伴い、噴火前の山体の膨張（隆起）及び噴火後の収縮（沈降）を観測した（赤矢印）。 |



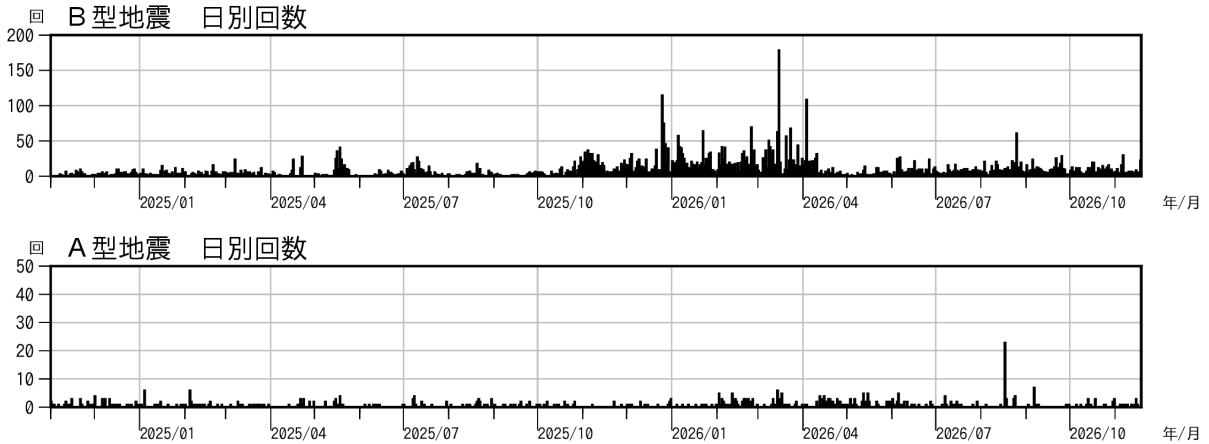

桜島　傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況　（2026年10月１日～10月31日）

※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。
※図の作成には、京都大学のハルタ山坑道、高免坑道の観測データを使用している。
※横山観測点は山頂火口域のほぼ西に位置していることから、傾斜計東西成分の東側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示している

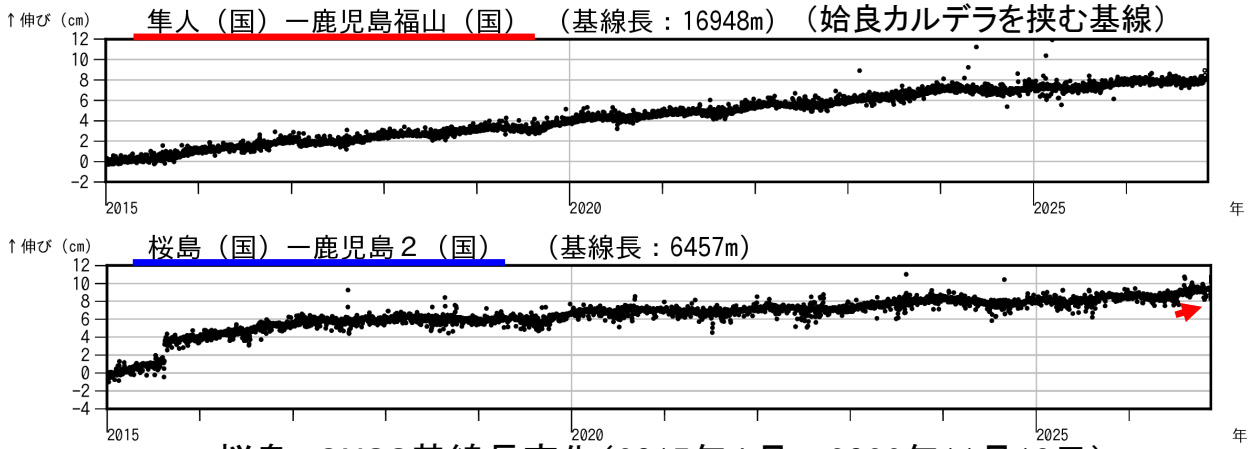
# 桜島　噴火警戒レベル3（入山規制）

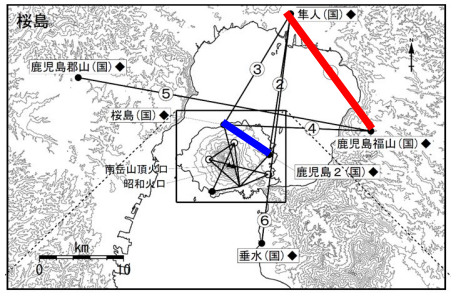
警戒範囲：火口から概ね2km
（2022年7月27日20時00分発表）

| | １０月以降の主な状況 |
|---|---|
| 震動現象 | 火山性地震は少ない状態で経過 |
| ＧＮＳＳ | 長期にわたり姶良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる<br>桜島島内の一部の基線で2026年５月頃から山体膨張に伴うとみられるわずかな伸びがみられていたが、９月頃から停滞している |




桜島　地震活動推移（2024年11月～2026年11月18日）



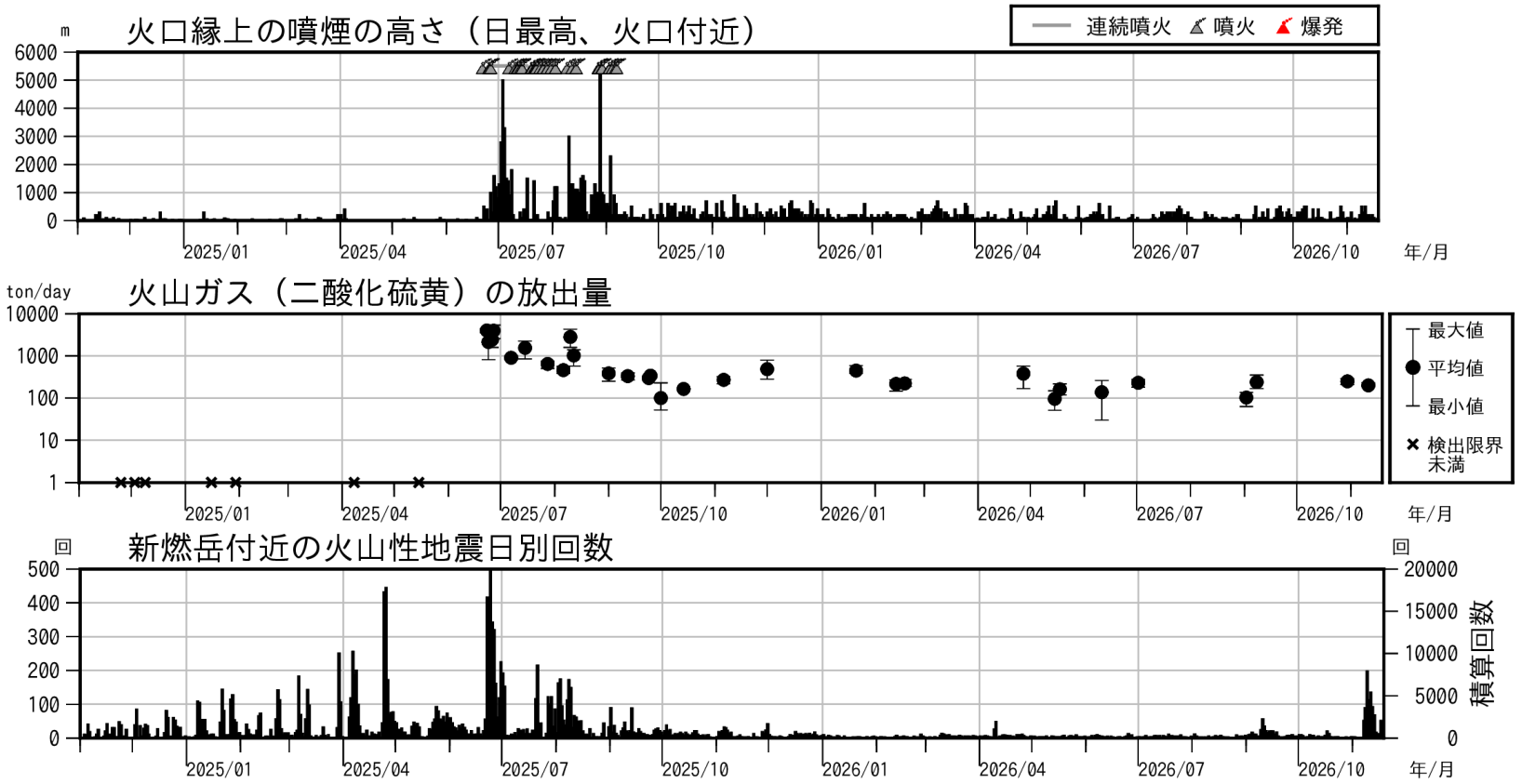




桜島　GNSS基線長変化（2015年１月～2026年11月18日）

# 新燃岳　噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
（2025年10月17日11時00分発表）

| | １０月以降の主な状況 |
|---|---|
| 活動評価 | 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり数百トンの状態が継続、火山活動は高まった状態で経過 |
| 噴火活動 | 2025年９月８日以降、噴火は観測されていない |
| 火山ガス | 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は１日あたり平均200～300トンとやや多い状態 |
| 震動現象 | 火口直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過していたが、11月７日から増加し、多い状態となった |




新燃岳　火山活動経過図（2024年11月～2026年11月18日）

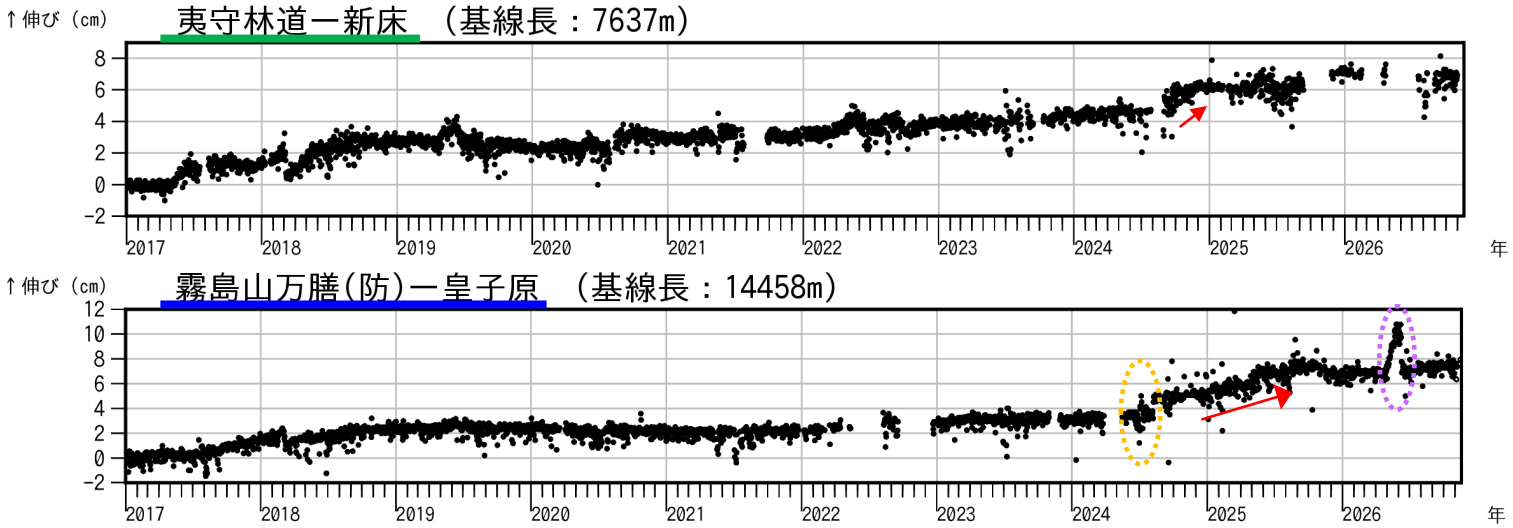
# 新燃岳　噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
（2025年10月17日11時00分発表）

## １０月以降の主な状況

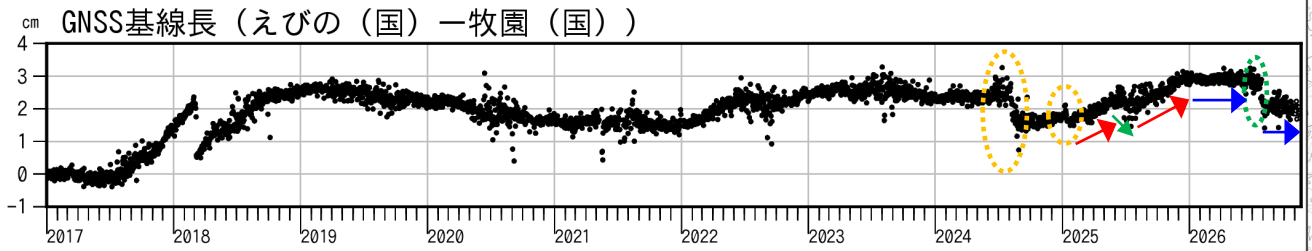
**ＧＮＳＳ**

霧島山を挟む一部の基線で、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、2025年12月中旬頃からは停滞。同基線では2025年７月上旬に噴火活動に対応すると考えられるわずかな縮みがみられた（緑矢印）。新燃岳付近の地下における膨張を示すと考えられる基線の伸びは、2025年７月以降は認められない。




新燃岳付近　GNSS 連続観測による基線長変化（2017年１月～2026年11月18日）

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す
※紫色の破線は皇子原観測点周囲の環境の変化に伴う影響と考えられる




霧島山　GNSS 連続観測による基線長変化（2017年１月～2026年11月18日）

※橙色の破線は2024年8月8日、2025年１月13日の日向灘の地震による変動を示す
※緑色の破線は令和8年熊本地震（2026年７月28日）による変動を示す

